

さぬき・東かがわ市 研究のあゆみ

- 1 研究主題 学びを実生活に生かせる国語科学習のあり方
—単元を貫く言語活動の工夫—
- 2 研究活動の概要
 - (1) 4月27日(金) 研究主題設定, 研究組織づくり, 研究計画立案
 - (2) 6月15日(金) 研究授業 さぬき市立志度小学校
1年 登場人物の気持ちや行動を読み取り, 音読劇に生かそう
「かいがら」
指導者 東部教育事務所主任指導主事
 - (3) 7月25日(水) 夏季研修会 さぬき市役所会議室, 志度図書館
提案「全校で取り組む言語活動・スキル学習」
講話「図書展示について」 志度図書館司書
講話「ブックトーク」 寒川図書館司書
 - (4) 11月8日(木) 研究授業 東かがわ市立誉水小学校
1年 すきなもののクイズをしよう
～めざせ! はなしかためいじん, ききかためいじん!～
指導者 さぬき・東かがわ小学校教育研究会国語部会 副部会長
 - (5) 1月22日(火) 児童文集「はらっぱ」の編集作業

3 研究内容

- ・ 6月の研究会では, 教材文に出てくる主人公の気持ちを考え, その気持ちが伝わるように音読で表現することを中心に提案授業が行われた。児童は, 自分が考えた登場人物の気持ちについて, 表情カードをもとにグループで話し合い, 音読に生かそうと意欲的に取り組んだ。授業後には討議を行い, 「単元を貫く言語活動の工夫について」と「考えを深める交流のさせ方」について活発な討議がなされた。また, 指導者からは, 1年生に付けるべき力を明確にしながら単元を構成していくことや, 読むことの系統性を意識して指導をすることの重要性について御指導いただいた。
- ・ 11月の授業は, 「すきなもののクイズ」をすることで児童の意欲を高めながら, 話し方・聞き方の技能を高めていく流れで行われた。児童の集中力を継続させたり, 児童にめあてを達成させたりするための丁寧な支援が見られる授業であった。授業後には「付けたい力を深めるための手立て」「学年に応じた評価のさせ方」について討議が行われた。指導者からは, 支援の工夫や学んだことを日常生活にいかんにかに生かしていくかについて指導助言をいただいた。

小豆郡 研究のあゆみ

1 研究主題 単元を貫く言語活動を充実させる学習の展開

2 研究活動の概要

(1) 4月20日 土庄小学校：研究組織作り，研究計画の立案

(2) 6月21日 土庄小学校：研究授業

せつめい文をくらべて読もう「ふろしきは、どんなぬの」

(3) 11月30日 淵崎小学校：教材研究（講話・演習）

『読むこと』（説明的文章）の言語活動を取り入れた国語授業づくり

低学年グループ「虫は道具をもっている」

中学年グループ「人をつつむ形—世界の家めぐり」

高学年グループ「テレビとの付き合い方」

指導者 香川県教育センター主任指導主事

3 研究内容

- 6月の研究授業では、表現形式の違う2つの説明文を「比べて読む」という言語活動を位置づけた。「大好きなALTの先生に、『ふろしき』という日本特有の道具について知らせる」という設定は、意欲の継続につながり、相手意識を明確にした言語活動の有用性を強く感じるものになった。

この学習の中で、どのような観点で相違点を見つけていったらよいのかを知り、分かりやすい説明文とはどんなものかを考える力を育てることができた。また、相手や目的に応じて説明の仕方に違いがあることを一貫して学べる単元作りがなされていた。

- 11月の研修は、指導者の先生に必要な時に適宜指導に入っていたきながらの演習形式で行った。まず演習に入る前に、指導者の先生から授業作りのポイントを話していただき、それをふまえて、低中高に分かれ説明的な文章における単元作りを行った。後に、各グループの発表を聞き合い、①本単元でつきたい力②単元を貫く言語活動③言語活動を設定した理由④単元の指導計画（指導のポイントと評価規準）について検討した。

指導では、言語活動を充実させる原則を4点示された。1点目は、「その単元でつきたい力を見極めること」であり、手引きに書かれてある学習活動のどれが未習でどれが既習かを正しく把握するために、指導事項が系統的に示された年間指導計画作成の必要性を挙げられた。2点目は、「つきたい力にぴったりの言語活動の選定」であり、ねらいを実現するのにもっともふさわしい言語活動を選ぶために、言語活動の種類とその特徴を見極めることの大切さを挙げられた。3点目は、「言語活動を単元を貫いて位置づけること」であり、その言語活動を遂行する上で必要な能力を、導入—展開—発展の中で育てることが重要であり、最終ゴールに向かった展開を考えることが挙げられた。また、子どもに示すめあてには、つきたい力が明確になっている言葉が入っている事が望ましいというポイントも示していただいた。4点目は、「児童の大好き、知りたい・伝えたいという思いを重視した指導過程の工夫」を挙げられた。この演習で、授業づくりでは、子どもはどう考えるのか、子どもの意識に寄り添って考えることが大切であり、それが楽しい国語の授業につながるということを再認識させられた。

高松市 研究のあゆみ

- 1 研究主題 真に生きて働く国語力を育てる国語科授業の創造
～単元を貫く言語活動を位置づけた授業づくり～

2 研究活動の概要

- (1) 6月14日(木) <第1回研究授業・討議>

東ブロック 4年 目的による表し方のちがいを考えよう
「広告と説明書を読みくらべよう」

西ブロック 1年 つたえたい! どうぶつのとくちょうーどうぶつになりきって
「どうやってみをまもるのかな」

南ブロック 2年 説明文をくらべて読もう
「ふるしきは、どんなぬの」

- (2) 11月15日(木) <第2回研究授業・討議>

東ブロック 1年 のりもののことをしらべよう
「いろいろなふね」

西ブロック 1年 すきなおはなしをしょうかいしよう
「おとうとねずみチロ」

南ブロック 2年 どうぶつのひみつクイズを作ろう
「ビーバーの大工事」

3 研究内容(各ブロック研究授業より)

東ブロック

第1回

- ・ 実生活で生きる国語の力を付けることが必要であることから、子どもたちが意欲的に学ぼうとする身近な理科教材との比較はとても有効であった。
- ・ 実生活で生きる言語活動のポイントは、以下の4点である。このことを念頭に単元構成をくふうしたい。

① 付けたい力の明確化

② 課題を明確にし、それに応じた言語活動

③ 基礎・基本的な知識・技能の活用(比較して読む技術を活用, 目的意識・相手意識をもつ)

④ 思考・判断・表現する活動

- ・ 視覚的に訴えるような板書, ワークシートの工夫がされていた。
- ・ 比較読みによって, 共通点・相違点がはっきりし, 読む必然性が高まる。
- ・ 目的や意図の違いに着目していくことが必要である。

第2回

- ・ 単元を貫く言語活動を設定する意味は,

① 単元で身に付けさせたい力を生かすこと

② 児童が見通しをもちながら学習ができるようにするというねらい

③ 教材を学ぶ意図を明らかにすること

である。

- ・ 並行読書により、時間短縮ができ、子どもの意識もつながっていく。学校図書館の利用も推進したい。
- ・ 1文目は「何をするのか」、2文目は「この船にのっているもの・あるもの」、3文目で「あるものを使ってどうするのか」と、このつながりをはっきりとおさえておくことが大切である。図鑑には、いろいろな書きぶりがあり、「～のための」という言葉が載っていないものも多いが、文を入れてみると、「～のための」にぴったりと合うことがある。このつながりをおさえておくことが、第3次の活動につながっていく。

西ブロック

第1回

- ・ 単元で付きたい力を年間指導計画や子どもの実態を踏まえて決め、それにふさわしい言語活動の確定を大切にして単元を構想した。その際、予定の時間数で単元を終えられるように工夫した。
- ・ 文章を縦に並べて表のように示したり、色分けしたりして、視覚的によく分かる工夫がなされていたことにより、説明的文章には段落があること、同じパターンで繰り返しがあることなどが1年生にも理解できた。
- ・ 単元のはじめに書いた動物の「なりきり文」と、本時に書いた「なりきり文」を比べて読むと、認識が深まって表現できているのが分かった。
- ・ 「なりきり文」を書きやすくする改善点として、動作化を取り入れる、吹き出しに表現させる、キーワードを書かせる、モデル(例示)を用意する等が考えられる。
- ・ 児童同士の話し合いの場を持ち、キーワードなど小さい課題について話し合うなどの学習訓練をしていくとよい。

第2回

- ・ 単元を貫く言語活動が、活用する力を付ける場である。本単元では、教材文読解と、そのことを活用するものとしての「並行読書」、「好きなお話のカードづくり」が同時にすすめられていた。
- ・ 語彙を増やすことは、児童の思考を深めることにつながる。お気に入りの本の感想を書くのに、語彙表が有効であった。語彙表を常に意識させ、使った語彙に○を付けていくことや余白に児童自身が見つけた言葉を書き込んでいくことが児童の意欲化につながった。
- ・ 書く活動時の時間調整では、絵をかいたり「おとうとねずみチロ」と似たところを書いたりしたが、チャレンジできる児童には、文章をふくらませたり、他の本でも紹介カードを書いてみたりするなど、どんどんできる環境にしておくとうよかった。

南ブロック

第1回

- ・ カードと本の文章を比べ、表に項目ごとに整理することにより、2つの説明の仕方を比較しやすくし、理由をはっきりさせて考える力を育てることをねらいとした。

- ・ 「1年生おすすめの遊具を紹介しよう」という活動を設定することで、児童の生活につなげ意欲を高めることができた。
- ・ 子どもの主体的な学習を促すために、学習課題が明らかになった後は、自分の力で課題について考える段階（＝中心活動）が必要である。
- ・ 説明文を比べる視点は、文の長さや文の数などの形式面だけでなく、同じ視点ごとの対象認識の違いといった内容面も見べきである。

第2回

- ・ 「どうぶつのひみつクイズ・かいせつ書つき」を作る活動を行った。動物について児童がすごいと思うことをクイズにし、クイズの解答に動物の特徴や知恵をプラスして解説書を書くことにより、児童の読み取りを見取ることができた。
- ・ 前時までに学習した「数値」「比喩」等の様子を表す表現方法や、理由を表す表現方法をクイズの解説書の書き方に「わざ」として加えることで、児童の表現力を高めることができた。
- ・ 一人学び→学び合い→一人学び→学び合いを繰り返し行った。一人学びを基盤にすることで、児童に学習の見通しが立った。
- ・ 「離陸」と「着陸」を見通した授業を目指してほしい。「離陸」は児童の「もっと調べたい」という意欲であり、「着陸」は学習終了時の児童の様子である。

〈夏季研修会より〉

研修1 第1回研修会の内容について、各ブロック研究部からの報告を受け、支部全体で交流し、共通理解を図った。

研修2 高松市総合教育センター 研修指導員を講師に招き、講演を行った。

講演内容

○随筆「桜の花びら・がらまつ葉」（上智大学 渡辺 実）を基に

言葉の獲得は、自分の体験や経験を基になされるものである。言葉をもっていないと、体験や経験が自分の中に残らない可能性がある。何事も「ラッキー」で終わらせてしまう表現では十分に表現できない事柄が多くある。「涙が出るほどうれしい」と「飛び上がるほどうれしい」では心情が大きく異なる。それらの心情を伴った体験や経験を分類表現できるのが語彙の豊かな状態である。

また、微細な表現も感じ取る力が必要である。「懐かしい」と「恋しい」は非常によく似た表現であるが、どのように異なるのか。共に、昔にあったよいことを思い出すものであるが、「懐かしい」は絶対に再現されないものが表現される場合が多く、思い出すことが中心である。対して、「恋しい」は再現願望が強い。願わくば、もう一度同じ状態になってほしいと思うことである。「カレーライスとライスカレー」「おにぎりとおむすび」といった、言葉一つとっても授業が構成できることが、国語科教師としては必要な感覚である。

○国語科の学力をめぐって

本人の欲求が素直に表現できる力を身につけさせる必要がある。つまり、読みたいことが読め、書きたいことが書ける力が育成されるべきである。さらに加えて言うならば、文字の美しさも含まれるべきである。

また、国語における言語活動は、言葉をより正確に的確に表現することと捉えてほしい。各教科で、言語活動が取り入れられていることは大切であるが、国語の中では、まとめを書く際にでも、言葉にこだわったまとめが表現されることが望ましい。

坂出市・綾歌郡 研究のあゆみ

- 1 研究主題 実生活で生きてはたらく力を育てる国語科の学習
— 単元を貫く言語活動を充実させる学習の展開 —
- 2 研究活動の概要
 - (1) 4月12日 研究組織作り, 研究主題の設定, 研究計画立案
 - (2) 6月13日 松山小学校 研究授業・討議
2年 便利グッズの説明文をくらべて読み, 説明の仕方博士になろう
— 「ふろしきはどんなぬの」 —
 - (3) 10月26日 羽床小学校 研究授業・討議
3年 「もうどう犬 もの知りカード」を作ってみんなに紹介しよう
— 「もうどう犬の訓練」 —
- 3 研究内容
 - (1) 松山小学校の授業より
 - ・ 本単元では, 2つの文章を比べて読む活動を通して, 説明の仕方や文章の構成などの表現方法に着目し, キーワードを基に内容の大体を読む能力を育てることをねらいとする。単元を貫く言語活動としては, 身近な便利グッズについて書かれた説明文(教師作成)をカードにする活動を位置づけた。言語活動を設定する際の問題点「時間が足りない」を解決するための重要な視点は, 系統性を見通した上での該当学年のねらう能力を明確化することにより, それに直結する活動を選ぶことであると確認した。
 - ・ 本時は, カードを一項目ごとに切り離して短冊にし, もう一方の文章中の同じ箇所に貼る活動を取り入れた。それにより二つの説明文の同じところと違うところに気づかせ, それぞれのよさについて考えた。操作活動は思考を明確にするために効果的であり, 今後も使いやすくねらいに迫る方法を工夫し, 積極的に取り入れていくとよい。
 - ・ 授業では, 児童の発言・思考を整理し, ねらいに迫る教師の支援が大切であるが, そのためには, 教師自身がポイントを明確にして, 授業に臨むことが重要である。
 - (2) 羽床小学校の授業より
 - ・ 本単元では, 「もうどう犬もの知りカード」について全校生に紹介するというゴールを設定し教材を学習する中で, 目的に応じて要約する能力を育てることをねらいとした。授業の中で教師が常にゴールを示す姿勢があり, 単元を通じて児童の目的意識を高め継続させるのに効果的であった。今回は「全校生」という広い年齢層を表現相手としたが, 目的や必要に応じて要約は変わってくるものであり, つけさせたい力に応じて相手の年齢や立場, その範囲等を検討し, より適切な相手を設定することが重要であることを確認した。
 - ・ 本時は, 「人間の言うことに従う訓練を短くまとめよう」をめあてに, 4つの段落の内容を要約する中で, 要約のポイントを見つけ出す学習をした。授業中, 少人数のメリットや日頃からの教師の受容の姿勢から, 児童が自由に自分の意見を表現できており, さらに, それらの発言から, 今までに要約の技能をすでに身に付けていることがうかがわれた。それらの発言を中心に上げ, 価値づけしつつ授業を展開する支援によって, 児童一人ひとりが納得できる深い学びが成立することを確認した。
 - ・ 教材文の詳細な読解にとらわれず, 学年相応の目標を達成することを念頭に「教材で教える」意識を明確にもち, 提案的な授業を行ったり全国学習状況調査を解いたりし, 部員外の教員へも広く新学習指導要領の趣旨を伝えていくとよい。

丸亀市 研究のあゆみ

1 研究主題 生きてはたらく力を育てる言語活動の工夫

2 研究活動の概要

(1) 4月18日 城北小学校 研究組織作り, 研究主題の設定, 年間計画作成

(2) 6月6日〈研究授業・討議〉

低学年部会 2年「せつめいの文をくらべて読もう」

— ふろしきは どんなぬの —

高学年部会 6年「書き手のくふうを考えながら新聞の投書を読もう」

— 新聞の投書を読み比べよう —

(3) 12月5日〈研究授業・討議〉

低学年部会 1年「ことばあそびをしよう」

高学年部会 6年「戦争と人間の生き方をえがいた本を読み広げよう」

— ヒロシマのうた —

3 研究内容

- ・ 2年「せつめいの文をくらべて読もう」では、場面や用途による2つの説明の仕方を比較させる学習において気をつけなければならないことや、言語活動を設ける際に大切にしなければならないことなどについて話し合った。
- ・ 6年「書き手のくふうを考えながら新聞の投書を読もう」では、書き手の工夫を見つけさせるために、効果的なワークシートの工夫やねらいの明確化について、さらに、書きぶりのよさを一般化させることの重要性について討議した。
- ・ 1年「ことばあそびをしよう」では、[書くこと]の基礎基本の力と言語感覚を磨くことをどうつなげていくとよいか、また、つけたい力を具体化させることが意欲的な学習活動につながっていくことなどを話し合った。
- ・ 6年「戦争と人間の生き方をえがいた本を読み広げよう」では、物語の主人公の生き方をふまえての読み取りのさせ方や、主題についてまとめるにあたって個々の考えを深めるための手だてなどについて話し合った。

仲多度郡・善通寺市 研究のあゆみ

1 研究主題 単元を貫く言語活動を充実させる学習の展開

2 研究活動の概要

- (1) 4月25日 研究組織作り、研究主題の設定、計画立案
- (2) 6月12日 第1回研究授業 1年「おはなしだいすき～かいがら～(東書)」
- (3) 7月25日 香小研国語部会夏季研修会提案発表の検討
2学期教材の教材研究
- (4) 11月15日 第2回研究授業 1年「くらべて読もう～じどう車くらべ～(光村)」

3 研究内容

第1回の研究授業(1年)では、これまで登場人物になりきって読み進めてきた学習を読み手という客観的な立場で捉えさせ、登場人物に手紙を書くという授業が提案された。前時までの場面ごとの読み取りの学習で「くまくん日記」を書く活動を位置づけ、その日記をもとにくまくんの人物像を捉えるように支援されていた。その学習をもとに、ペア学習で相手の子をくまくんに見立てて話をしたり、簡単な文を書いたりするという学習が展開された。指導者からは、研究主題にある「単元を貫く」ためには、目的や見通しを児童に理解させて学習に臨ませることが大切であること、第3次の言語活動は、教師が児童にどんな力をつけたいのかを考えて設定し、言語活動を通してその単元の指導事項を指導していくということなどをご指導いただいた。

第2回の研究授業(1年)では、言語活動を「自動車図鑑づくり」と設定し、児童が自分で図鑑を作るために必要な力を、教材文の学習を通して身につけ、それを図鑑作りに活用するという授業が提案された。読み取りの学習の際に「しごと」と「つくり」を表に書き抜いて整理させることでその関係性を理解させ、自分の図鑑作りの際に本の中から必要な情報を見つける力へとつながるように支援されていた。指導者からは、「単元を貫く言語活動」を充実させるために、言語活動と指導事項が一体化した単元構成をすること、指導事項を焦点化することなどを多くの具体例を挙げてご指導いただいた。

三豊・観音寺市 研究の歩み

- 1 研究主題 「生活に生きてはたらく力を育てる国語科の学習」
－ 単元を貫く言語活動を充実させる学習の展開 －

2 研究活動の概要

- (1) 5月 2日 研究組織作り，研究主題の設定
研究計画の立案（三豊市市民交流センター）
- (2) 6月22日 三観小研 研究授業（上高瀬小学校）
3年 書く人のくふうを考えよう
「ほけんだより」を読みくらべよう：東京書籍
- (3) 7月27日 夏季研修会（詫間小学校）
○ 講演・演習「単元を貫く言語活動のこれから」

○ 講演 「新聞と教育 Q&A」
講師 四国新聞記者

3 研究内容

上高瀬小学校では、「聴く力を高め、自分の考えを『ことば』で表現できる子どもの育成」のテーマのもと、研究の柱を以下のように設定し、実践研究をすすめている。

- ① 聴く力を高めることを重視した授業の土台づくり
- ② 自分の「ことば」で表現するための力を育む授業分析・研究分析
- ③ 豊かな言語感覚を養う場や環境の設定

本実践（3年）では、書き方の異なる二つの文章内容を比べることを通して、伝わり方の違いを考え、それを短い言葉でまとめる学習が提案された。前時の学習とつないで、二つの文章の内容や構成の仕方を比較しながら、「ふせげるんだ（予防）」と「なくなるんだ（怖さ）」という二つの伝わり方について読み取っていった。その際、比較しやすいよう黒板を左右に分け、共通点と相違点を色分けや矢印を使って視覚的に理解できるように支援されていた。また、書き手の表現の意図である「予防」と「怖さ」を、「五・七・五ことば」に表現する言語活動が活発に行われていた。

指導者からは、研究主題に沿い本単元を展開するにあたって、「1 授業づくりのステップ」「2 第2次の授業改革」「3 本時の授業づくり」の3点について示唆していただいた。

1では、単元構想、2では、第2次で単元を貫く言語活動（書く人の工夫を考えよう）の一部を位置付けること、3では、「目的」「相手」に応じて読むことで、読みが主体的になることをご指導いただいた。また、本時の「五・七・五ことば」の言語活動では、付箋紙に書かれたキーワードを使って表現できていたことは、長文を要約する力や文のメッセージを考える力を育成することができるとご指導いただいた。